

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
------	-----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	主 題	内 容	学習方法
1	人体の構造	細胞膜と細胞質・核、細胞内小器官と細胞骨格	講 義
2	人体の構造構造からみた人体の区分	遺伝子、染色体、細胞分裂・組織・合成	講 義
3	人体の構造機能からみた人体	恒常性、サーカディカンリズム	講 義
4	体液・体液の区分・組成	酸塩基平衡、浸透圧調整	講 義
5	運動機能系 骨格の構造と機能	骨の連結、骨格筋・体幹の骨格と筋 ・体の動きと筋骨格の仕組みの実際	講義・演習
6	骨格の構造と機能		講義・演習
7	上肢・下肢の骨格と筋	上肢の骨格と筋・下肢の骨格と筋 ・姿勢と計測 ・関節可動域計測	講義・演習
8	上肢・下肢の骨格と筋		講義・演習
9	頭頸部の骨格と筋	頭頸部の骨格と筋	講 義
10	筋の収縮	骨格筋収縮の機構、種類と特性、不随意筋の収縮 ・握力測定、上腕三頭筋反射、膝蓋腱反射	講義・演習
11	筋の収縮		講義・演習
12	生殖器系	男性生殖器の構造と機能	講 義
13	生殖器系	女性生殖器の構造と機能	講 義
14	成長と老化	成長による変化、老化による変化	講 義
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 「解剖生理学」 医学書院
参考書	
備 考	*教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。 1回目～11回目：杉野一行先生、 12回目～14回目：日高輝久先生

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										</
------	-----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

回	主 題	内 容	学習方法
1	I. 呼吸器系 呼吸器系の構造	上気道、下気道	講 義
2	呼吸器系の構造	下気道と肺、胸膜・縦隔	講 義
3	呼吸器系の機能	内・外呼吸、呼吸運動、呼吸気量	講 義
4	呼吸器系の機能	ガス交換・運搬	講 義
5	呼吸器系の機能	肺循環、呼吸運動の調整	講 義
6	呼吸器系の病態	換気障害、拡散障害	講 義
7	呼吸器系の機能	換気血流比不均等	講 義
8	呼吸機能の実際	肺活量測定	演 習
9		運動負荷時の脈拍・呼吸回数・SP02測定	
10	II. 体液	体液の構成 体液の区分、体液の組成	講 義
11	体液	体液の調整 電解質バランス、酸塩基平衡、浸透圧調節	講 義
12	III. 泌尿器系の構造と機能	腎臓・糸球体・尿細管	講 義
13	泌尿器系の構造と機能	傍糸球体装置・クリアランス・糸球体濾過量・エリスロポエチン	講 義
14	尿の生成・体液量の調整	排泄路の構造・蓄尿と排尿 ・採尿及び尿検体検査（比重測定、U-テストテープ検査）	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 「解剖生理学」 医学書院
参考書	
備 考	* 教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目				☐
	1	2	3	4					
		●							
科目名	形態機能学Ⅲ				担当講師	日高輝久			
分 野	専門基礎		授業方法	講義	実務経験				
単位数	1単位		時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期	
概 要	人間は、日々自分の身体を使いながら日常生活を過ごしている。看護は、生活する人の健康の保持・増進・回復、そして生死に関わる。そのために看護師は人間の健康な生活行動を支えている身体づくりと働きを熟知して対象に関わることが重要である。本科目では、内部環境の恒常性を保つしくみと、恒常性を維持するための物質の流通とその経路について学ぶ。								
到達目標	1. 日常生活の営みを支える看護に必要な循環器系の構造と機能について理解する。 2. 人体の恒常性や感染防御機構に必要な血液の組成と機能について理解する。								

回	主 題	内 容	学習内容
1	I. 循環器 心臓の構造と機能	心臓の位置、外形、心臓壁、血管と神経	講 義
2	心臓の構造と機能	刺激伝導系、心機能の調整	講 義
3	心臓の拍出機能	心臓の興奮とその伝播、心電図、心臓の収縮	講義・演習
4	心臓の拍出機能	心電図及び心拍数測定の実施（安静時・体動時）	演 習
5	抹消循環器系の構造	血管の構造・位置、動脈、静脈、毛細血管	講義・演習
6	抹消循環器系の構造	肺循環、体循環、冠循環、脳循環	講 義
7	抹消循環器系の構造	血圧と血圧調節、門脈系	講 義
8	リンパ系の構造と機能	リンパ液、リンパ管	講 義
9	リンパ系の構造と機能	リンパ節、胸管	講 義
10	II. 血液	血液の組成と機能	講 義
11	血液	赤血球、白血球	講 義
12	血液	血小板、血漿タンパク質と赤血球沈降速度	講 義
13	血液	血液の凝固と線維素溶解	講 義
14	血液	血液型	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 「解剖生理学」 医学書院
参考書	
備 考	* 教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目	☐
	1	2	3	4		
		●				
科目名	形態機能学Ⅳ				担当講師	高柳真理子
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務	
単位数	1単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期 前期
概 要	人間は、日々自分の身体を使いながら日常生活を過ごしている。看護は、生活する人の健康の保持・増進・回復、そして生死に関わる。そのために看護師は人間の健康な生活行動を支えている身体づくりと働きを熟知して対象に関わることが重要である。本科目では、栄養の消化と吸収のしくみについて学ぶ。					
到達目標	1. 日常生活の営みを支える看護に必要な消化器系の構造と機能について理解する。 2. 人体の内部環境の調整に必要な自律神経、内分泌とホルモンについて理解する。					

回	主 題	内 容	学習方法
1	I. 消化器 咀嚼・嚥下	消化器 咀嚼・嚥下 唾液腺の構造と機能	講 義
2	栄養の消化と吸収	咽頭と食道の構造と機能	講 義
3	栄養の消化と吸収	腹部消化管の構造と機能 胃の構造と機能	講 義
4	栄養の消化と吸収	腹部消化管の構造と機能 小腸・大腸の構造と機能	講 義
5	栄養の消化と吸収	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	講 義
6	栄養の消化と吸収	三大栄養素の消化と吸収、食行動のメカニズム	講義・演習
7	栄養の消化と吸収	消化管運動と反射、消化管ホルモン	講 義
8	栄養とエネルギー代謝	同化・異化作用、酵素	講 義
9	物質代謝	炭水化物・脂肪・タンパク質・ビリルビン・核酸・ビタミン・ミネラル代謝	講義・演習
10	II. 内分泌 自律神経による調節	自律神経の機能と構造、神経伝達物質と受容体	講義・演習
11	内分泌とホルモン	ホルモンの化学構造と作用機序	講 義
12	全身の内分泌腺と内分泌細胞	視床下部一下垂体系、甲状腺と副甲状腺	講 義
13	全身の内分泌腺と内分泌細胞	膵臓、副腎、性腺	講 義
14	ホルモンの分泌調節、調節の実際	神経性調整、負と正のフィードバック機構	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 「解剖生理学」 医学書院
参考書	
備 考	*教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目	☐
	1	2	3	4		
		●				
科目名	形態機能学Ⅴ				担当講師	杉野一行
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験		
単位数	1単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期 前期
概 要	人間は、日々自分の身体を使いながら日常生活を過ごしている。看護は、生活する人の健康の保持・増進・回復、そして生死に関わる。そのために看護師は人間の健康な生活行動を支えている身体づくりと働きを熟知して対象に関わることが重要である。本科目では、情報処理の受容と処理を行うしくみと内臓機能の調節機構、外部環境からの防御のしくみについて学ぶ。					
到達目標	1. 情報の受容と処理を行うしくみについて理解する。 2. 内臓機能の調節機構について理解する。 3. 外部環境からの防御のしくみについて理解する。					

回	主 題	内 容	学習方法
1	I. 脳神経 神経系の構造と機能	神経細胞と神経組織	講 義
2	脊髄と脳の構造と機能	大脳、視床・視床下部	講 義
3	脊髄と脳の構造と機能	中脳、橋、延髄、小脳、脊髄	講 義
4	脊髄と脳の構造と機能	中脳、橋、延髄、小脳、脊髄	講 義
5	脊髄と脳の構造と機能	脳の高次機能、運動機能と下行伝達路	講 義
6	脊髄と脳の構造と機能	姿勢反射、髄膜と脳室、脳脊髄液の循環、覚醒と睡眠	講 義
7	脊髄神経と脳神経	脊髄神経・脳神経の構造と機能 脳神経	講 義
8	脊髄神経と脳神経	脊髄神経・脳神経の構造と機能 脊髄神経 反射	講義・演習
9	脊髄神経と脳神経	脊髄神経・脳神経の構造と機能 体性神経、自律神経、実験（冷感刺激）	講義・演習
10	II. 生体防御	皮膚の構造と機能	講 義
11	生体の防御機構	特異的防御機構、非特異的防御機構	講 義
12	生体の防御機構	生体防御の関連臓器	講 義
13	代謝と運動	代謝とは、運動とエネルギー	講義・演習
14	体温調節	熱の出納、体温調節、発熱、高体温・低体温	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 「解剖生理学」 医学書院
参考書	
備 考	* 教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										</
------	-----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

回	主 題	内 容	学習方法
1	感覚機能と上行伝導路（１）	感覚の種類と性質、表在・深部感覚	講 義
2	感覚機能と上行伝導路（２）	皮膚の感覚受容器分布、上行伝導路 体性感覚	講 義
3	話す・聞く：耳の構造と機能	発声にかかわる器官、言葉、平衡感覚	講義・演習
4	見る：眼の構造と機能	視力と視野、明暗覚、色覚、眼球運動、反射	講義・演習
5	痛み：皮膚の構造と機能	皮膚の構造と機能 痛みの分類、発生機序	講義・演習
6	味・臭い：口腔・鼻の構造と機能	味覚、嗅覚、味蕾	講義・演習
7	感覚機能と上行伝導路（３）	内臓感覚の受容器と機能 内臓痛覚、臓器感覚	講 義
8	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 「解剖生理学」 医学書院
参考書	
備 考	*教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目				☐
	1	2	3	4					
		●							
科目名	疾病と治療Ⅰ				担当講師	秋月浩光・新田 隆・倉持雅己			
分 野	専門基礎		授業方法	講義	実務経験				
単位数	1単位		時 間	30 時間	学 年	1年次		学 期	後期
概 要	疾病により健康を障害された人の回復過程を促進する援助を行うためには、形態機能学で学習した人体の正常な形態と機能について理解した上で、疾病によりそれらがどのように変化するか、どのように症状として現れるのか、それに対しどのような治療、処置、検査を行うのか等の知識を身に付ける必要がある。呼吸器・循環器・耳鼻咽喉の感覚器において、臨床で遭遇する頻度の高い疾病を中心に、それらがもたらす身体内部の変化を学習し、看護実践の基本となる知識を修得する。								
到達目標	1. 感覚機能の障害として耳鼻咽喉の疾患について理解する。 2. 呼吸機能の障害と治療について理解する。 3. 循環機能の障害と治療について理解する。								

回	主 題	内 容	学習方法
1	感覚機能障害と治療（1）	耳鼻咽喉① 難聴・メニエール病	講 義
2	感覚機能障害と治療（2）	耳鼻咽喉② 嗅覚・味覚障害、咽頭喉頭疾患	講 義
3	呼吸機能障害と治療（1）	主要症状と病態生理	講 義
4	呼吸機能障害と治療（2）	炎症性疾患（気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎）	講 義
5	呼吸機能障害と治療（3）	感染症・アレルギー疾患（気管支喘息）	講 義
6	呼吸機能障害と治療（4）	閉塞性疾患（COPD）・拘束性肺疾患、肺循環障害	講 義
7	呼吸機能障害と治療（5）	換気異常（肺高血圧、肺塞栓症）腫瘍・胸腔疾患	講 義
8	呼吸機能障害と治療（6）	気胸、症状・状態を提示し推論	講義・演習
9	循環機能障害と治療（1）	主要症状と病態生理	講 義
10	循環機能障害と治療（2）	先天性心疾患	講 義
11	循環機能障害と治療（3）	虚血性心疾患・心膜疾患・心筋症	講 義
12	循環機能障害と治療（4）	心不全・心タンポナーデ	講 義
13	循環機能障害と治療（5）	血圧異常・不整脈疾患	講 義
14	循環機能障害と治療（6）	血管の疾患・弁膜症、症状・状態を提示し推論	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験			
教科書	系統看護学講座 系統看護学講座 系統看護学講座	成人看護学⑭ 成人看護学② 成人看護学③	耳鼻咽喉 呼吸器 循環器	医学書院 医学書院 医学書院
参考書				
備考	テキストを事前に読み予習しておく。講義の内容は整理し復習しておく。			

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー							
	1	2	3	4				
		●						
					実務経験のある教員等による授業科目			☐
科目名	疾病と治療Ⅱ				担当講師	村居幸夫・鹿志村純也		
分 野	専門基礎		授業方法	講義	実務経験			
単位数	1単位		時 間	30時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	疾病により健康を障害された人の回復過程を促進する援助を行うためには、形態機能学で学習した人体の正常な形態と機能について理解した上で、疾病によりそれらがどのように変化するか、どのように症状として現れるのか、それに対しどのような治療、処置、検査を行うのか等の知識を身に付ける必要がある。消化器、代謝・内分泌機能において、臨床で遭遇する頻度の高い疾病を中心に、それらがもたらす身体内部の変化を学習し、看護実践の基本となる知識を修得する。							
到達目標	1. 消化機能の障害と治療について理解する。 2. 肝臓・胆嚢・膵臓の機能の障害と治療について理解する。 3. 代謝・内分泌機能の障害と治療について理解する。							

回	主題	内容	学習方法
1	歯・口腔障害と治療	口腔、咽頭の疾患（咽頭炎・扁桃炎、齦歯・歯周病、腫瘍）症状・状態からの推論	講義・演習
2	消化機能障害と治療（1）	上部消化管疾患（炎症性疾患、潰瘍、腫瘍）	講義
3	消化機能障害と治療（2）	下部消化管疾患（炎症性疾患、潰瘍、腫瘍）	講義
4	消化機能障害と治療（3）	イレウス、排便障害（便秘、下痢）	講義
5	消化機能障害と治療（4）	腹壁・腹膜・横隔膜の疾患	講義
6	肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害と治療（1）	炎症性疾患（肝炎・胆嚢炎・膵炎）症状・状態からの推論	講義・演習
7	肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害と治療（2）	脂肪肝、アルコール性肝炎、肝硬変	講義
8	肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害と治療（3）	腫瘍（肝癌、胆嚢癌、胆管癌、膵癌）	講義
9	代謝・内分泌機能障害と治療（1）	間脳、視床下部・下垂体の異常、症状・状態からの推論	講義・演習
10	代謝・内分泌機能障害と治療（2）	甲状腺疾患・副甲状腺疾患	講義
11	代謝・内分泌機能障害と治療（3）	副腎疾患・髄質疾患	講義
12	代謝・内分泌機能障害と治療（4）	性腺疾患・多発性内分泌腫瘍	講義
13	代謝・内分泌機能障害と治療（5）	糖代謝異常・メタボリックシンドローム、肥満症	講義
14	代謝・内分泌機能障害と治療（6）	脂質代謝異常・体液の調節障害・栄養の異常、症状・状態からの推論	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講義

評価方法	客観試験		
教科書	系統看護学講座 成人看護学⑤ 消化器 系統看護学講座 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 系統看護学講座 成人看護学⑮ 歯・口腔	医学書院 医学書院 医学書院	
参考書			
備考	教科書を事前に読み予習しておく。講義後は内容を整理し復習しておく。		

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー								
	1	2	3	4					
		●							
					実務経験のある教員等による授業科目				☐
科目名	疾病と治療Ⅲ				担当講師	畑山 徹・平澤知之・平澤直之			
分 野	専門基礎		授業方法	講義	実務経験				
単位数	1単位		時 間	30時間	学 年	1年次	学 期	後期	
概 要	疾病により健康を障害された人の回復過程を促進する援助を行うためには、形態機能学で学習した人体の正常な形態と機能について理解した上で、疾病によりそれらがどのように変化するか、どのように症状として現れるのか、それに対しどのような治療、処置、検査を行うのか等の知識を身に付ける必要がある。脳・神経系、運動器において、臨床で遭遇する頻度の高い疾病を中心に、それらがもたらす身体内部の変化を学習し、看護実践の基本となる知識を修得する。								
到達目標	1. 脳・神経機能の障害と治療について理解する。 2. 眼科疾患とその治療について理解する。 3. 運動機能の障害と治療について理解する。								

回	主題	内容	学習方法
1	脳神経機能障害と治療（1）	脳血管障害（脳内出血、脳梗塞等）、頭蓋内圧亢進症	講義
2	脳神経機能障害と治療（2）	神経系の腫瘍	講義
3	脳神経機能障害と治療（3）	神経系の感染症	講義
4	脳神経機能障害と治療（4）	機能的疾患（てんかん）・神経変性疾患（パーキンソン病、ALS）症状・状態からの推論	講義・演習
5	脳神経機能障害と治療（5）	脱髄性疾患・脊髄・脊椎疾患（脊髄損傷、頭部外傷）	講義
6	脳神経機能障害と治療（6）	末梢神経疾患	講義
7	脳神経機能障害と治療（7）	筋疾患・代謝性疾患・中毒性疾患	講義
8	脳神経機能障害と治療（8）	筋ジストロフィー、重症筋無力症	講義・演習
9	感覚機能障害と治療（1）	眼科疾患（白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症）事例展開	講義・演習
10	運動機能障害と治療（1）	骨折、脱臼、捻挫 骨粗鬆症・骨折スポーツ障害事例展開	講義・演習
11	運動機能障害と治療（2）	変形性関節症・関節リウマチ	講義
12	運動機能障害と治療（3）	脊椎・脊髄疾患（椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症）	講義
13	運動機能障害と治療（4）	骨・軟部腫瘍（骨肉腫）	講義
14	運動機能障害と治療（5）	炎症性疾患（骨・骨髄炎、関節炎）、症状・状態からの推論	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講義

評価方法	客観試験		
教科書	系統看護学講座 成人看護学⑦ 脳・神経 系統看護学講座 成人看護学⑩ 運動器 系統看護学講座 成人看護学⑬ 眼	医学書院 医学書院 医学書院	
参考書			
備考	教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。		

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目			☐
	1	2	3	4					
		●							
科目名	疾病と治療Ⅳ				担当講師	萩原将太郎・大塚勝太・大久保道子・日高輝久			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験					
単位数	1単位	時 間	30時間	学 年	1年次	学 期	後期		
概 要	疾病により健康を障害された人の回復過程を促進する援助を行うためには、形態機能学で学習した人体の正常な形態と機能について理解した上で、疾病によりそれらがどのように変化するか、どのように症状として現れるのか、それに対しどのような治療、処置、検査を行うのか等の知識を身に付ける必要がある。腎・泌尿・生殖器、生体防御機能、感覚器において、臨床で遭遇する頻度の高い疾病を中心に、それらがもたらす身体内部の変化を学習し、看護実践の基本となる知識を修得する。								
到達目標	1. 血液・造血機能の障害と治療について理解する。 2. 排泄機能の障害と治療について理解する。 3. 生殖機能の障害と治療について理解する。 4. 生体防御機能の障害と治療について理解する。 5. 皮膚疾患とその治療について理解する。								

回	主題	内容	学習方法
1	血液・造血機能障害と治療(1)	貧血（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球貧血、溶血性貧血、骨髄異形成症候群、二次性貧血）	講義
2	血液・造血機能障害と治療(2)	腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）、症例	講義・演習
3	血液・造血機能障害と治療(3)	白血球系疾患（白血球減少症）	講義
4	血液・造血機能障害と治療(4)	出血性疾患（TTP、ITP、DIC）	講義
5	生体防御機能の障害と治療(1)	アレルギー疾患（花粉症、蕁麻疹、アナフィラキシーショック）、症例	講義・演習
6	生体防御機能の障害と治療(2)	免疫不全（敗血症、ヒト免疫不全ウイルス感染症）	講義
7	生体防御機能の障害と治療(3)	自己免疫疾患（全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、シェーグレン症候群）、症例	講義・演習
8	排泄機能障害と治療(1)	腎炎、腎不全（慢性腎臓病）、症例	講義・演習
9	排泄機能障害と治療(2)	腎・尿路結石、腎盂腎炎、膀胱炎	講義
10	排泄機能障害と治療(3)	排尿障害（過活動性膀胱、尿失禁、夜尿症）、症例	講義・演習
11	生殖機能障害と治療(1)	男性生殖器（前立腺炎、前立腺肥大症）	講義
12	生殖機能障害と治療(2)	女性生殖器・乳腺の疾患	講義
13	感覚機能障害と治療(1)	皮膚疾患① 感染性、アレルギー性皮膚炎	講義
14	感覚機能障害と治療(2)	皮膚疾患② 疥癬、白癬症、蜂窩織炎 症例	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講義

評価方法	客観試験			
教科書	系統看護学講座 系統看護学講座 系統看護学講座 系統看護学講座 系統看護学講座	成人看護学④ 成人看護学⑧ 成人看護学⑪ 成人看護学⑨ 成人看護学⑫	血液・造血器 腎・泌尿器 アレルギー膠原病感染症 女性生殖器 皮膚	医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院
参考書				
備考	教科書を事前に読み予習しておく。講義後は内容を整理し復習しておく。			

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目				☐
	1	2	3	4					
		●							
科目名	病理学				担当講師	日高輝久			
分 野	専門基礎		授業方法	講義	実務経験				
単位数	1単位		時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期	
概 要	なぜ身体に不調が起こるのか、身体の臓器・組織にどのような変化が起こっているのか、その変化を原因別に学ぶ。それらの知識を活用して対象に起こっている変化を根本から理解できるように学習する								
到達目標	1. 身体のはたらきが正常から逸脱する場合のさまざまな症状・徴候のメカニズムに共通する現象を理解する								

回	主題	内容	学習方法
1	病理学で学ぶこと	看護と病理学、病気の原因、病気の分類と病理学の学び方	講 義
2	細胞・組織の障害と修復	細胞・組織の損傷と適応・反応、炎症の分類と治療	講 義
3	免疫、移植と再生医療	免疫と免疫不全、アレルギーと自己免疫、移植と再生医療	講 義
4	感染症	感染の成立と感染症の発症、主な感染症・治療・予防	講 義
5	循環障害、代謝障害、老化と死	循環系：浮腫、充血、出血、血栓・塞栓、虚血、高血圧、DIC、脂質・蛋白・糖質代謝異常、老化と老年症候群、老化のメカニズム	講義・演習
6	先天異常と遺伝性疾患・腫瘍	先天性異常、遺伝子異常、腫瘍の定義・分類、診断・治療	講 義
7	病理学各論（1）	循環器系の疾患、血液・造血器系	講 義
8	病理学各論（2）	呼吸器系の疾患	講 義
9	病理学各論（3）	消化器系の疾患、内分泌系の疾患	講 義
10	病理学各論（4）	腎・泌尿器系、生殖器系、乳腺の疾患	講 義
11	病理学各論（5）	脳・神経・筋肉系の疾患	講 義
12	病理学各論（6）	骨・関節系の疾患	講 義
13	病理学各論（7）	眼・耳・皮膚の疾患	講 義
14	病理学各論（8）	病理所見からの臨床推論	講義・演習
15	まとめ・終講/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進①「病理学」 医学書院
参考書	
備 考	教科書を事前に読み予習しておく。講義後は内容を整理し復習しておく。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目				☐
	1	2	3	4					
		●							
科目名	生化学				担当講師	高妻孝光			
分 野	専門基礎		授業方法	講義	実務経験				
単位数	1単位		時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期	
概 要	人間の体内では分子レベルでみると様々な物質が変化し、協調しながら健康を維持している。看護を実践するうえで、身体を構成している物質は何か、それらの物質がどのように変化して生体の恒常性が保たれているのか理解することは大切である。疾患をもつ対象の理解と看護がつながるように学習する								
到達目標	1. 生体を構成している物質の機能および調節機能を理解する								

回	主題	内容	学習方法
1	生体を構成する物質とその代謝(1)	生化学を学ぶための基礎知識	講 義
2	生体を構成する物質とその代謝(2)	タンパク質・タンパク質代謝(1)	講 義
3	生体を構成する物質とその代謝(3)	タンパク質・タンパク質代謝(2)	講 義
4	生体を構成する物質とその代謝(4)	糖質・糖質の代謝(1)	講 義
5	生体を構成する物質とその代謝(5)	糖質・糖質の代謝(2) 糖質代謝・構造しくみについて	講義・演習
6	生体を構成する物質とその代謝(6)	脂質・脂質の代謝(1)	講 義
7	生体を構成する物質とその代謝(7)	脂質・脂質の代謝(2) 脂質代謝・構造しくみについて	講義・演習
8	生体を構成する物質とその代謝(8)	核酸代謝	講 義
9	生体を構成する物質とその代謝(9)	代謝異常	講 義
10	生体を構成する物質とその代謝(10)	酵素の性質と働き	講 義
11	生体を構成する物質とその代謝(11)	水と無機質・体液	講 義
12	生体を構成する物質とその代謝(12)	ホルモンと生活活性物質、ビタミン、血液と尿	講 義
13	遺伝子情報とその発現	遺伝子と核酸、遺伝子の複製・修復・組換え、転写	講 義
14	細胞のシグナル伝達とがん	シグナル伝達、がん	講 義
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能② 「生化学」 医学書院
参考書	
備 考	※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目				☐
	1	2	3	4					
		●							
科目名	薬理学				担当講師	高橋昌也			
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験					
単位数	1単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期		
概 要	薬物は生体の病理学的変化に作用して回復に向けた効果的な働きかけを行う一方、生体の機能を低下させてしまう働きも大きい。このような薬物の持つ効果と副作用を正しく理解する必要がある。そのため、薬物療法における看護師の重要な役割を理解し、人体への薬物の働きかけや薬物に対する生体側の反応など、薬物治療に関する基礎的知識を学ぶ。								
到達目標	1. 薬物が人体に及ぼす影響やその管理について理解する。 2. 主作用・副作用などの薬物作用（薬理作用）について理解する。 3. 各種疾患、病態に用いられる薬物の薬理学的作用、作用機序について理解する。								

回	主題	内容	学習方法
1	薬物治療の目指すもの	薬物療法とは 薬物療法における看護師の役割	講 義
2	薬理学の基礎知識（１）	薬理作用 薬物動態	講 義
3	薬理学の基礎知識（２）	薬効に影響する因子 有害作用	講 義
4	抗感染症薬（１）	基礎知識 抗菌薬	講 義
5	抗感染症薬（２）	特殊な感染症治療薬 感染症治療における問題	講義・演習
6	抗がん薬	がん治療の基礎事項 免疫治療薬	講 義
7	心臓・血管系に作用する薬物（１）	抗高血圧薬・利尿薬	講 義
8	心臓・血管系に作用する薬物（２）	血液に作用する薬物	講 義
9	物質代謝に作用する薬物	ホルモンとホルモン拮抗薬、治療薬としてのビタミン	講 義
10	抹消での神経活動に作用する薬物	神経系情報伝達、自律神経作用薬、交感神経作用薬 副交感神経作用薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬	講義・演習
11	中枢神経に関する薬物	中枢神経系の働きと薬物 催眠薬、抗精神病薬 抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬	講 義
12	抗アレルギー薬・抗炎症薬	利尿薬ヒスタミン、抗アレルギー薬、抗炎症薬	講 義
13	輸液剤・輸血剤	輸液製剤とは 輸血剤、輸血に伴う有害作用	講 義
14	看護業務に必要な薬の知識	消毒薬 薬に関する単位、処方箋・添付文書、薬液の計算方法	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進「薬理学」 医学書院
参考書	
備 考	※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー									実務経験のある教員等による授業科目	☐
	1	2	3	4							
		●									
科目名	微生物と感染症				担当講師	高妻孝光					
分 野	専門基礎		授業方法	講義	実務経験						
単位数	1単位		時 間	30 時間	学 年	1年次		学 期	後期		
概 要	目に見えない微生物は、地球環境を浄化するためにとても重要である一方、健康と生命を脅かす感染症を起こす。このことから看護師には微生物と感染症の知識が不可欠となる。本科目では、ある微生物はどのような病気になり、どのような症状を呈するのか、それに対しどのように診断し、治療するのかを学ぶ。										
到達目標	1. 人間の生活と微生物の関係について理解する。 2. 微生物の性質を理解する。 3. 感染症の成立、感染機構、検査、診断、治療について理解する。 4. 健康状態を脅かす微生物の人体に及ぼす影響を理解する。 5. 病原微生物の感染予防について理解する。										

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	微生物と微生物学	講 義
2	細菌の性質	講 義
3	真菌の性質 原虫の性質	講 義
4	ウイルスの性質	講 義
5	感染と感染症（1） 感染とは・感染の成立から発症、治癒まで	講 義
6	感染と感染症（2） 細菌感染・真菌感染・ウイルス感染	講 義
7	感染に対する生体防御機構・感染経路からみた感染症（1）	講 義
8	感染に対する生体防御機構・感染経路からみた感染症（2）	講 義
9	感染症の検査と診断・治療・臨床推論	講義・演習
10	主な病原微生物（1） 病原細菌と細菌感染症	講 義
11	主な病原微生物（2） 病原真菌・病原原虫と感染症	講 義
12	主な病原微生物（3） おもなウイルスとウイルス感染症	講 義
13	感染症の現状と対策、臨床推論	講義・演習
14	感染予防対策・院内感染対策	講 義
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進「微生物学」 医学書院
参考書	
備 考	※しっかり予習・復習して講義に臨みましょう。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目			☐
	1	2	3	4					
		●							
科目名	治療論				担当講師	大久保直光			
分 野	専門基礎		授業方法	講義	実務経験				
単位数	1単位		時 間	15時間	学 年	1年次	学 期	後期	
概 要	疾病の治療技術は飛躍的に進歩している。また、それらを受ける患者のニーズは多様化し、疾病も複雑化している。本科目では、患者の治療に必要な最新知識・技術が統合された治療についての概要を学び、治療を受けながら日常生活を送る対象の日常生活援助に活用するための基礎知識を身につける。								
到達目標	1. 疾病の回復を促進する各治療法の原理を理解する。								

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	治療法とは 治療法の分類・EBM	講 義
2	画像検査・放射線療法、画像の見方	講義・演習
3	化学療法	講 義
4	麻酔法	講 義
5	手術療法 輸血 手術用器械・器具の実際	講義・演習
6	透析療法	講 義
7	内視鏡的検査・治療	講 義
8	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	病態・治療論〔1〕「病態・治療総論」 南江堂
参考書	
備 考	しっかりと予習・復習して臨みましょう

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目 ☐			
	1	2	3	4				
		●	●					
科目名	保健医療論				担当講師	菊地修司		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1単位	時間	15 時間	学 年	1年次	学 期	後期	
概 要	医療の変遷と保健医療の意義や役割を理解し、保健・医療・福祉との連携の中で健康を守り支援するための知識を学び医療・看護の原点から説きおこし、現代の保健医療を学んでいく。							
到達目標	1. 医療と看護のしくみや医療の流れについて理解できる。 2. 医療技術の進歩と新しい社会規範について理解できる。 3. 保健・医療の今日的課題を理解できる。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	医療と看護の原点	講 義
2	医療の歩みと医療観の変遷	講 義
3	生活と健康	講 義
4	科学技術の進歩と現代医療の最前線	講 義
5	現代医療の新たな課題	講 義
6	医療を見つめ直す新しい視点	講 義
7	保険・医療・福祉の潮流	講 義
8	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	健康支援と社会保障制度「総合医療論」 医学書院
参考書	
備 考	* 教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目			☐
	1	2	3	4					
		●	●						
科目名	社会保障制度				担当講師	大森 泰			
分 野	専門基礎		授業方法	講義	実務経験				
単位数	1単位		時 間	30 時間	学 年	1年次		学 期	後期
概 要	人は生まれてから死ぬまでの間に多くの社会保障の制度の支えを受けて生活している。そこで、社会保障制度と社会福祉の概要を学ぶとともに、社会の変化に伴い社会保障・社会福祉のあり方も変化することを学習する。そして、本科目では、医療保障・介護保障、所得保障、公的扶助を中心に学習する。								
到達目標	1. 社会保障と社会福祉の概要を体系的に理解する。 2. 現代の社会福祉制度の背景を理解する。 3. 医療保障および介護保障について理解する。 4. 所得保障、公的扶助について理解する。								

回	授 業 計 画 ・ 内 容	学習方法
1	社会保障制度と社会福祉 社会保障制度 概念・目的・機能	講 義
2	社会保障制度と社会福祉 社会保障制度 歴史、サービスの提供、財政、体制	講 義
3	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 現代社会の変化	講 義
4	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 社会保障・社会福祉の動向	講 義
5	医療保障制度の沿革、健康保険制度の構造と体系、健康保険と国民健康保険	講 義
6	高齢者医療制度	講 義
7	介護保険制度（１）介護保険制度の概要	講義・演習
8	介護保険制度（２）介護保険給付、介護保険の財政、事業計画	講 義
9	所得保険、年金保険制度、社会手当、労働保険制度	講 義
10	公的扶助 貧困・低所得問題と公的扶助制度、生活保護制度、低位所得者対策：事例	講義・演習
11	社会福祉の歴史 さまざまな社会福祉援助	講 義
12	社会福祉の分野とサービス（１） 高齢者福祉（老年福祉法）	講義・演習
13	社会福祉の分野とサービス（２） 障害者福祉（身体障害者・知的障害者福祉法）	講義・演習
14	社会福祉の分野とサービス（３） 児童家庭福祉（児童・母子および寡婦福祉法）	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説	講 義

評価方法	客観試験
教科書	健康支援と社会保障制度「社会保障・社会福祉」 医学書院
参考書	
備 考	*教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。